

山梨県中学生交通安全弁論大会

深澤穂乃花さん(武川中学校2年)が優勝!!

第59回山梨県中学生交通安全弁論大会(山梨県警察本部・(一財)山梨県交通安全協会共催)が10月23日、甲府市内の「コラーニー文化ホール」で開催されました。大会には、県内12警察署管内の地区大会で優秀な成績を収めた12人など14人が参加し、持ち時間5分で「論旨の分かりやすさ」「表現の適切さ」「発表の態度」を基準に審査した結果、『命を守る「心のゆとり」』の演題で発表した北杜市立武川中学校2年深澤穂乃花さんが優勝しました。出場者は、自らの体験などを通じて感じた事を中学生の目線から訴え、審査員をはじめ観衆に感動を与えました。

弁論の内容につきましては、「中学生交通安全弁論要旨集」を発行し、県下の中学校をはじめ、関係機関・団体に交通安全教育資料として配布します。

◇優勝

深澤 穂乃花 (武川中学校2年)

◇準優勝

松隈 錬 (甲陵中学校3年)

梶原 このみ (勝山中学校3年)

望月 璃々子 (駿台甲府中学校2年)

◇優秀賞

山本 舞香 (櫛形中学校1年)・佐藤 里菜 (都留第二中学校3年)

飯塚 彩心 (御坂中学校2年)・籠持 海優 (南部中学校3年)・望月 那采子 (鵜沢中学校3年)

古屋 慎人 (甲府北中学校3年)・小林 夏季 (勝沼中学校3年)・関 宗幸 (敷島中学校2年)

深澤 ひかり (甲府西中学校3年)・相馬 知枝 (上野原西中学校2年) (発表順) = 以上敬称略

山梨県中学生交通安全弁論大会

主催 / 山梨県警察本部 ・ (一財) 山梨県交通安全協会



山梨県中学生交通安全弁論大会優勝作品

『命を守る「心のゆとり」』 深澤 穂乃花 (武川中学校2年)



私はこれから“命”のことについて話をしたい。実際に危険を目の当たりにし、身をもって経験した私が、私なりに考えた交通事故への対抗手段だ。実際、あの出来事が起こるまでの私の浅はかな行動を思い出すと嫌気がさす。しかしあの出来事があったからこそ、私は変わった。

「穂乃花、おじいちゃんの運転だから、早めに支度しなさいよ。」いつものように母に言われた。それなのに私はダラダラと支度をし、出発時刻に遅れた。そして「間に合わないから急いで。」と祖父に頼んだ。しかし祖父は、知らん顔して自分のペースで運転する。時間ギリギリ。焦る私をよそに祖父は安全確認のために車を停めた。「なんで止まるの!」思わず口から声が漏れる。すると次の瞬間、突然自転車が飛び出てきた。自転車に乗っていた少年は、恐怖で顔がひきつり、よろめき転びそうになった。そして、体勢を立て直すとおびえた表情でこちらの様子をうかがっている。

どう考えてもこちらが優先道路だ。もしも接触していたらあの子のせいで、おじいちゃんが悪者になってしまう。「ふざけるな。」私には怒りがこみあげてきた。

しかし、祖父は、「大丈夫かい。あぶないから心にゆとりを持って、ゆっくりお行き。」と窓越しに優しい声をかけた。少年は「ごめんなさい。ありがとう。」と頭を下げた。衝撃的だった。「ごめんなさい」と謝るだけではなく「ありがとう」である。

私たちの年齢は、いや、少なくとも私は、たとえ自分が間違っても素直に謝ることなどできない。

しかし、真っ先に祖父が気遣いの言葉をかけたことにより、罵声を浴びせられることを覚悟していた少年は相手のために安全運転をしている祖父の心を理解したのだ。

そして、「感謝」することができた少年は二度と飛び出すことはしないだろうと感じた。私は自分を恥じた。出発時刻に遅れた自分を棚に上げ、祖父に「焦り」という「魔物」をけしかけていたのだから。

毎日のように報道される交通事故。皆さんの中にも道路で危険な目にあつたという人も多いことだろう。それほどまでに“交通違反・交通事故”は私達の生活の中でありふれたものになっている。この状況を考えると残念ながら「交通事故はなくなる。」と言わざるを得ない。新たなる発明でもない限りわれわれ人間が利便性を求める以上これはまぎれもない事実である。しかし、だからこそ、私はこう言いたい。

まず全ての人に。「心のゆとり」をしっかり和持とと伝えたい。そして、全ての中高生に。私達こそが当人だ。心にゆとりが持てれば、正しい行動をとったりできる。心が伝わりあつた世界は、きっとそんな明るい場所だ。

家から一歩出ればそこは公共の場。事故を起こし、人を巻き込めば、被害者や家族に長く辛い苦しみを与え続けることになる。そうならないために「心のゆとり」で「命」を守る。ゆとりの心は連鎖する。その温かい心の連鎖がいつか輪となり、安全な社会となることを私は信じている。